



# 妊孕性（にんようせい）温存を考えている方へ

## \* 妊孕性ってなに？

妊孕性とは「妊娠する力」のことを意味します。がん治療の影響によって、妊孕性が失われたり、低下したりし（卵子や精子の減少など）、将来子どもを授かることが難しくなることがあります。妊孕性を残す方法として、生殖補助医療を用いた妊孕性温存方法があります。

## \* 妊孕性温存って？

がんに対する治療により、将来子どもを授かることが難しくなる可能性のある患者さんに、将来子どもを授かることができる可能性を残すことです。

## \* がんと妊孕性の温存

- ・近年、がんに対する治療の進歩によって、多くの患者さんががんを克服しその後に子どもを産み育てることができるようになっています。
- ・まずは何よりもがん治療を優先しましょう。あなた（お子様）が元気になった時のために、妊孕性温存の方法について考えておきましょう。
- ・誰にとっても希望がすべて叶うというわけではありません。今、家族で考えようとしていることはとても意義のあることだと考えています。

## \* 妊娠について考えるために必要な情報

- ・がんの特徴や状態
- ・治療の種類や大まかなスケジュール
- ・現在の卵巣・精巣機能の状態
- ・妊孕性温存に取り組む時間があるか
- ・妊孕性温存の身体的負担や精神的負担、経済的負担について

## \* 妊孕性温存についてあらかじめ知っておいてほしいこと

- ・あなた（お子様）の命がもっとも大切なので、がんの治療が最優先されます。
- ・がんの治療と妊孕性温存療法が安全に両立できるかどうか、がん治療医（主治医）の承諾のもと生殖医療医に相談する必要があります。
- ・妊孕性温存療法は方法により、一定期間が必要となりますので、できるだけ早く生殖医療機関を受診できるように準備しましょう。
- ・妊孕性温存療法を受けたい場合には、パートナーやご家族の気持ちも大切。治療にかかる機関や費用などを含め、十分に話し合しましょう。
- ・妊孕性温存療法は着実に進歩していますが、必ず温存ができ、将来の妊娠が約束されているというわけではありません。